

## 令和6年度水資源功績者表彰受賞者と功績概要

[個人]・・・2名

受賞者	功績概要
藤原 倂子 (埼玉県)	特定非営利活動法人 水のフォーラム 理事長 市民に対し流域の水に関わる情報提供等を行い、人と水との関わりの再構築に寄与する活動を行っている特定非営利法人「水のフォーラム」の設立から現在に至るまで、理事長を務めている。荒川流域における水への理解の促進を目的とした機関誌等による情報発信のほか、「見沼田んぼ」での伝統的循環農法の実践活動や荒川の上下流交流会の実施など、流域の水循環の保全や普及啓発に尽力している。 また、埼玉県「八ッ場ダム等の建設に関する基本計画変更に係る懇話会」の委員や、埼玉県川の再生懇談会の委員を務めるなど、水資源行政の推進にも貢献した。
虫明 功臣 (千葉県)	印旛沼流域水循環健全化会議 前委員長 (現 顧問) 印旛沼流域水循環健全化会議の委員長を長年にわたり務め、「印旛沼流域水循環健全化計画」を策定し、印旛沼の水量回復、水質改善、生態系の保全等の具体的な取組を進める体制を整えた。 「印旛沼流域における雨水浸透施設及び雨水貯留施設の設置を推進するためのルール」を策定し、約5万基以上の雨水浸透マスを設置を実現。枯渇していた佐倉市内の名水「加賀清水」の湧水が復活した。 また、「印旛沼流域水循環健全化計画」は、「流域水循環計画」の初年度の1つとして国から公表され、令和5年には、国際会議 (HLPF) での環境大臣政務官のあいさつの中で取組事例が紹介されるなど、先駆的な取組に貢献した。

[団体]・・・5団体

受賞者	功績概要
長内川川の会 (岩手県)	河川敷への植樹や支障木伐採、外来植物の防除や清掃活動などを毎年実施しており、長内川上流域の河川愛護団体のほか、県内及び近県の河川愛護団体等と交流の機会をもつなど、活動領域を拡大しながら、水資源の保全意識の普及啓発に努めている。

<p>桂川・相模川流域協議会 (神奈川県)</p>	<p>神奈川県及び山梨県に事務局を置き、市民・事業者・行政が連携して、森林体験などの上下流交流事業や、流域環境保全の意識醸成を図るための流域シンポジウム、流域の清掃活動支援や水環境調査など、良好な流域の環境保全に貢献している。</p>
<p>加古川西部土地改良区 (兵庫県)</p>	<p>農業水利施設の保全の必要性についての理解を得るため、ため池の池干しを兼ねた雑魚取りや小学校社会科見学、地域住民の疎水ウォーク、水源地周辺の桜整備、地域の高校生による地元小学生への疎水授業を行うなど、活動内容を広げながら水資源の保全に貢献している。</p>
<p>筑後川下流域農業開発事業促進協議会 (福岡県)</p>	<p>筑後川下流域全体の豪雨災害を軽減するため、自治体と土地改良区、水利組合、農業協同組合などの関係者が連携して広域的に「クリーク（農業用排水路）の先行排水」を実施することで、流域治水対策に大きく貢献している。</p>
<p>白川中流域土地改良区協議会 (熊本県)</p>	<p>JA、企業、行政等と連携し、涵養効果の高い白川中流域における水田湛水の取組を実施し、地下水の保全に貢献している。また、小学生・高校生を対象に田植えや稲刈り等の農業体験を実施しており、地下水保全の大切さや、農業・水田の多面的機能についての普及啓発に努めている。</p>